

一 告 告



東 凌 (あずま りょう)
金沢工業大学大学院工学研究科
環境土木工学専攻
博士前期課程二年
奈良県 奈良学園高等学校出身

志望校の受験に失敗して金沢工大に入る学生がいる。しかし、その挫折を乗り越えて希望する企業に就職する学生は多い。東さんもその一人。浪人を経て、一から勉強し直そうと気持ちを切り替えたときに金沢工大を知った。やる気次第で自分の能力を伸ばすことができる大学だと。

勉強するサイクルと考える力。授業や研究で身につけたものです。

「授業が厳しく、基礎から学べる学習環境が充実していますね。ほくは生態系や環境に興味を持ち、工学的視点でそれらの問題に取り組みたいと思って環境土木工学科へ。また奈良には海がないから憧れがあって、海岸の水理現象を研究する有田研究室を選びました。ポイント、対象とする現地があること。自然相手で、オリジナリティがあるところが好きです。」

指導する有田准教授の専門は、海岸工学。海岸・防災・環境がテーマで、GPS観測による千里浜の海岸侵食、降雨発生装置や数値計算モデルを用いて融雪期の斜面崩壊予測手法の開発、ドローンやAIによるアマモ場植生の分布調査手法の開発などに取り組む。

「有田先生は、いい意味で放任主義。自分で考えることを非常に大事にされます。ほくの今のテーマは『浜名湖における地形特性の変化が潮汐伝播に与える影響に関する研究』です。長年蓄積してきたデータをもとに、浜名湖の潮汐伝播遅延のメカニズムを、数値シミュレーションによって解明し、土木工事や漁業に役立てたいと。」
学部四年の時に先生と現地観測し、二回の学会発表も経験した。現在は数値シミュレーションモデルを用いて現象の再現計算に試行錯誤中で、来年三月の学会を目標にパソコンに向かう日々だという。

就職は、国土交通省の北陸地方整備局に内定した。

「港湾の仕事をしたい。北陸を選んだのは、これから東アジアやロシアなどとの交流・交易で重要度がいっそう増すと期待され、地理的に重要な地域だからです。第一志望で、他は受けませんでした。大学で勉強するサイクルと考える力をつけてきたから、自信を持って試験に臨めましたね。」

大学生活でよかったのは、「人に恵まれたこと」と東さんは即答した。同期や先輩後輩・先生はもちろん、キャンパス案内など学生スタッフとして働いた経験、天文部での地域交流から得たものが大きいと。当たり前をきちんと実行できる技術者になりたいという東さんを支えているのは、金沢工大で培った人間力だと思った。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七-1
電話番号(076)248-1100